

第2学年 公共×論理・表現Ⅱ 学習指導案

1 単元名 英語を通して禅の思想を体験する―「わかりにくさ」の重要―

2 単元目標

- (1) 人間が、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成する存在であることについて理解することができる。

〔公共 思考・判断・表現〕

- (2) 英訳を通して理解した禅の思想を元に、簡単な英語で公案への自分なりの解釈を表現する。

〔論・表 思考・判断・表現〕

- (3) 課題を解決する過程で、直面した問題を試行錯誤しながら粘り強く解決に向け取り組もうとしている。

〔教科横断 48の探究スキル40番〕

- (4) 多様な意見を受け入れながら、他者と協働して課題の解決に取り組もうとしている。

〔教科横断 48の探究スキル47番〕

3 単元の評価規準

- (1) 私たちのものの考え方はどのように伝統・文化とかかわっているのか、日本の伝統的な考え方をもとに理解している。

〔公共 思考・判断・表現〕

- (2) 英訳を通して理解した禅の思想を元に、簡単な英語で公案への自分なりの解釈を表現している。

〔論・表 思考・判断・表現〕

- (3) 課題を解決する過程で、直面した問題を試行錯誤しながら粘り強く解決に向け取り組もうとしている。

〔教科横断 48の探究スキル40番〕

- (4) 多様な意見を受け入れながら、他者と協働して課題の解決に取り組もうとしている。

〔教科横断 48の探究スキル47番〕

4 単元について

(1) 教材観

本単元は日本の思想について学ぶ単元である。現代の高校生は、競争社会、SNS等がもたらす情報過多、そして絶え間ない他者からの評価の中で生きている。禅の思想を学ぶことで、生徒たちが今後、社会の中で「しあわせ」に生きるための一つの術を身に付けられるであろう。禅は日本の鈴木大拙によりヨーロッパ社会に紹介されたことがきっかけとなり、現在、世界中の心理学や医学分野においてマインドフルネスとして浸透し、宗教という枠を超え、心のトレーニングとして受け入れられている。また禅の精神は、日本の水墨画、枯山水庭園、茶の湯、武道といった芸術や文化と深く結びつくことで、これらの文化的な魅力を端緒として、世界中の人々が禅の思想に触れるきっかけを与えている。

以上のように、日本の文化や日本人の精神を理解するうえで、禅の思想を学び、理解することはとても重要であるのだが、使用されている用語やその説明がわかりにくく、生徒が理解することは非常に難しいのが現状である。一方英語の学習においては、プレゼンや発表等、自分の考えを発信する機会が多いものの、テーマは実用的な話題や社会問題を取り上げたものが多く、日本で古くから受け継がれてきた思想について学び、その内容を使用してコミュニケーションをすることはまれである。

本校での先行研究として、言語文化と論理・表現Ⅰをクロスさせた授業を実践した事例があり、英語を使用することで生徒が苦手意識を持っていた古典世界への理解を深められることが確認できた。

そこで今回、先行事例の応用として、英語を通して禅の思想を学ぶ機会を設定する。まず、日本語だと難解な禅の思想に関するキーワードの説明を英語で読む。難解な禅の思想を英語というフィルターを通すことで、生徒がより良く理解できると仮定しているからである。次に、禅の文化的魅力が体験的に語られているオイゲン・ヘリゲルの『弓と禅』のテキストを読み、西欧の人間が認識している禅の世界観を日本語と英語両方で読むことにより、さらに禅の思想を深く理解する機会を作りたい。そして、最後に、禅で扱われる公案に自分なりに考え、さらにペアと協働しながら、自分たちの考えを簡単な英語で表現することを通して、実践を重視する禅の思想を体験させたい。

このような授業展開を通して、禅が目指す不立文字や二元論の否定を体感することができるはずである。また、東洋と西洋がそれぞれ持つ文化や歴史的な背景の深い理解につなげることができ、日本に生きる私たち自身を深く振り返る機会を創出できると考える。

また、変化が多く非連続の時代と言われる現代社会を生きる生徒にとって、二元論的世界観や論理的な世界観以外の世界観を知るとは、必ず有益なものとなるはずである。そして、私たち自身の歴史と文化の中にそのような新しい考え方への種がすでに存在しているという、日本版ルネサンス的な発想を持ってもらえたら、とても良い気付きになるはずである。

このクロスカリキュラムの授業実践を通して、教科「公共」と「論理・表現Ⅱ」双方の学習内容の深化と定着を目指すとともに、探究力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

本校は全体的に真面目で素直な生徒が多い学校であるが、この長所が、逆に生徒の積極性や主体性の涵養のための障壁となり、これまで蓄えてきた知識や技能を十分に発揮できない結果をもたらしていることは、本校独自に行った「学校風土調査」の結果からも明らかである。

そこで、本単元の学びを通して、探究力を身に付けることで、生きて働く知識・技能や思考力・判断力・表現力に加え、日本的な批判的思考などの資質・能力を備えたしたたかな探究者の育成を目指す。また、共通のテーマに対して多様なものの見方や

考え方があることを理解し受容できるしなやかさを備えた探究者の育成を目指す。

(3) 指導観

ワークシートを利用して英語を通して読むことで、禅の思想に関連するキーワードへの理解をより深める。また、ペアワークを通して、英語と日本語を読み比べ、日本語に比べて、英語の説明がより論理的になっていることに気づき、ペアとの対話を通して、禅の思想への理解と親しみを深める。更に、ペアワークを通して、公案の問いに自分たちなりの答えを考え、簡単な英語で表現することにより、「わかりにくさ」に挑戦する面白さに気付くとともに、論理的であることが当たり前である世の中において、論理的ではない思想が可能性を秘めていることに気付く。

5 単元の指導計画（事前指導、公共 1 時間、日本史探究 1 時間、論理表現 1 時間）

	公共	論理表現	生徒の活動	評価規準等
導入 10 分	・ 今回の授業までに日本史探究の授業の中で鎌倉時代に流行した仏教思想について学び、禅の思想についても教科書的な内容を学んでいる。そこで、まずは禅の思想に関するキーワードを英語で読み、禅とはどのような思想なのか、英語を通して深く理解する。		・ 英文を読解する。 ・ 日本語と英語で説明にどのような違いがあるのかに気付く。	・ 英文を通して、内容を理解できている。 ・ 禅に関するキーワードを理解できている。
展開 ① 15 分	・ ヘリゲルの『弓と禅』の指定された箇所を英語で読む。ペアで意味を確認し、ある程度全体が意味を確認できたら、日本語のテキストと比較文学的に読み比べてみる。英語を通して読むことで理解がしやすくなっているかを確認する。		・ ペアになり、協力しながらテキストの読解に取り組む。	・ ペアと協働して読解ができている。 ・ 西洋と東洋の文化の違いに気づけている。
展開 ② 15 分	② 英語で公案にチャレンジする。 ・ 公案とは何かを知る。 ・ ペアで公案に取り組む。		・ 英語で公案に取り組む。	・ 論理的であるという思想とは違った思想があることを理解し、論理を離れた世界を実践できているか。
展開 ③	③ 公案を共有・発表する。 ・ 英語で考えた公案に対する自分たちのやりとりを、それぞれタブレ		・ タブレットを利用し、公案へのやりとりをまとめ、共有	・ 試行錯誤ペアとしながら協働し、公案へ取り組むこと

10分	ットに記入し、クラス内で共有する。その中からいくつかの作品を発表させる。	し、クラス内に発表する。	ができる。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通して、禅の思想をより良く理解できたか、クラス内で共有する。 ・英語を通して、日本人が古くから持っているものの見方や感じ方を学んだ経験を通して、非連続の時代を生きる自分たちの歴史や文化の中にこのような時代を生きる知恵がすでにあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を通してより深く禅の思想を理解できたかを振り返る。 ・英語を通して、日本人がどのようなメンタリティをもつ民族なのかを理解し、発信できるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を受け入れようとする態度が見られる。